

1 目指す学校像

多部制単位制高校のシステムを活用して、多くの生徒に門戸を開き、多様な生徒のニーズに応える柔軟な学びのシステムをもつ学校となる。

2 本年度の教育目標

- (1) 基礎学力の定着と学力の向上
- (2) キャリア教育の実践と進路保障
- (3) 基本的な生活習慣の定着
- (4) 豊かな心をはぐくむ教育の推進
- (5) 保護者や地域と連携した開かれた学校づくりの推進
- (6) 教育環境の整備

3 評価

( 1 - 1 )

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	外部評価	今後の課題	
教育課程・学習指導	少人数講座やＴＴ学習を実施した。一部では成果もあったが、基礎学力の定着に至らなかった。	少人数講座やＴＴ学習等の充実により、生徒一人ひとりの学力を向上させる。	単体制の特性を生かした講座の充実に取り組むとともに、教科会・学年会で成果や課題を検証する。	生徒の個性や興味・関心をもとに、できるだけ希望がかなうような講座編成を行った。各教科の意見も聞き、今後の講座編成に生かすよう努めた。	B	授業改善を目的とした授業参観を実施したことは評価できるが、実施回数や方法で不十分な点がある。来年度以降、ビデオ撮影を用いた研修等、創意工夫を期待する。授業改善を含めて、学校側には今以上の意識改革を望む。	単位制高校としての教育課程の在り方について、教育課程検討委員会にて検討を行い、平成22年度に反映させる。
	授業評価システムや公開授業が、一部の授業でしか実施できなかった。	「生徒がわかる授業」を展開するため、授業評価や公開授業等により授業を改善する。	全教員が年間1回以上の授業公開及び授業評価を実施する。	授業公開は実施できたが、授業改善に発展するまでには至らなかった。本校の重要課題でもあり、計画性を持った取組が必要である。	C		基礎学力の定着を目指し、また、教員の資質向上のため、授業改善プロジェクトを推進する。授業評価システムを有効に活用する。
	学習意欲が低下している生徒や怠学傾向の生徒に対する指導が徹底できなかった。	基本的な学習規律を身に付け、毎時間の授業を大切にすること。	教室の窓ガラスの透明化、全校集会等を活用して、生徒への指導を徹底する。	窓ガラスの透明化や定期的な集会（全校朝礼）に取り組むことができた。しかし、学習規律の確立までには至っておらず、最重要課題として取り組む必要がある。	C	「ほめる教育」をすすめることが大切である。「できることを見つけて伸ばす」ことも「ほめる教育」だと考えるので、創意工夫ある教育活動を望む。	学習規律の確立のため、教員・生徒に対して、年度当初にオリエンテーションを行う。
	生徒の学習意欲を向上させる各種の取組を行ったが、全体への広がりがなく徹底できなかった。	生徒の学習意欲を喚起するため、教育環境の整備、ほめる教育に取り組む。	校内テストの成績優秀者や資格取得者を校内掲示してほめる教育に取り組む、生徒の学習意欲を喚起する。	ほめる教育を意識し校内掲示を実施した。生徒の意欲向上のきっかけになった。また、独自で表彰する等の取組も実施した。	B		「生徒の可能性を見つけてほめる」ことを意識した教育を目指す。全校朝礼や学年集会の場では、単なる注意で終わることなく、ほめる教育の実践をすすめる。
進路指導	システムの構築に一定の成果があった。さらに、生徒の状況に合わせた活動内容を考えていく必要がある。	「総合的な学習の時間」の活動等により、問題解決能力を育成する。	高知大学と連携した自律創造型地域課題解決学習に取り組む。	学習プログラムを検討し、実施した。発想力・プレゼン能力の育成のきっかけになった。3年次生には、個々の進路に生かす指導・支援ができた。	B	今年度の自律創造型地域課題解決学習は、工夫がみられた。来年度につながる活動であるので、ますますの充実を望む。	高知大学との連携を深め、総合的な学習の時間におけるプログラム開発と実践をすすめる。
	断片的な進路指導になりがちであった。3年間を見通した体系的な進路指導が望まれる。	キャリア教育に組織的・体系的に取り組むことにより、進路意識の高揚を図る。	ソビア塾（年3回）の年度テーマとして、キャリア教育を設定する。また、各種の研修に参加する。	キャリア教育を意識したソビア塾（講演会）等を実施することができた。体系的なキャリア教育の構築までは至っておらず、効率的な計画立案が必要である。	C	資格取得の指導や競技会の成果、ソビア塾の活動は進路指導に結びついたものであり、評価できる。しかし、キャリア教育の構築までには至っておらず、計画性をもったキャリア教育活動が今後の課題である。高知県全体でも、キャリア教育の発展が望まれる。本校がその先陣を切ってほしい。	ソビア塾をマンネリ化させず、キャリア教育と結びつけた講演会とするため、講演内容等を検討し、計画性を持ったキャリア教育の構築を目指す。
	高度な資格取得に関しては、大きな成果があった。反面、広がりや不十分で、今後の課題として残った。	模擬試験、資格取得検定に積極的に参加させ、実力アップを図る。	各種資格検定や競技大会に積極的に参加して、生徒の意欲を喚起する。	資格検定試験や競技大会にも積極的に参加でき、成果を残すことができた。今後も、積極的に取り組み、生徒の意欲を喚起することが肝要である。	B		今後とも、日商簿記や漢字・英語検定等の資格取得を推進する。指導方法の充実も目指す。
生徒指導	進路指導がホーム主任や進路指導部の教員のみ任せられる傾向があった。	進路指導では個別指導を強化し、就職指導では面接などのスキルアップを図ることにより、進路達成率を向上させる。	ホーム主任、進路指導担当の個別面談や面接指導の回数を増加させる。また、夏季休業中にスキルアップ講習会を開催する。	進路指導部との連携を密にして、保護者と連絡を取り合いながら進路指導（面談・スキルアップ講習会等）ができた。進学率は6割を超え、進路未定生徒も少なく、一定の成果を収めた。	B		進路実現にむけた生徒・保護者との面談を複数回実施するとともに、進路ガイダンスや進路LH、履修登録ガイダンスを行い、進路実現100%を目指す。
	学校の活性化を目指し、学校行事や生徒会活動の充実、部活動の活性化が急がれる。	部活動や生徒会活動、ボランティア等に取り組む、生徒の自主性を育成する。	学校外学修の単位認定を整備する。生徒会が主体となった学校行事、交通安全、清掃活動に取り組む。	生徒会が主体となったミニ体育祭の企画・実行には良い評価を得た。今後の成長発展のために、生徒会の自主的な活動を促進する指導・支援が肝要になる。	B	多様な生徒が入学してくるため、一人ひとりにあった生徒指導が大切である。今後も不登校経験者等へのケアを期待する。	新たに学校行事として遠足やエコ活動、ケースメソッド学習を計画し、生徒の自主的な活動を支援していく。
	ホーム主任や関係する教職員は精力的に生徒と関わりを持っていたが、連携が十分でなかった。	生徒一人ひとりの自己有用感を高めるとともに、豊かな心と健やかな体づくりを支援する。	人権教育に積極的に取り組むとともに、保健室や教育相談室の活用について検証する。	人権教育に関する講演・ビデオ等の指導を実施することができた。多様な生徒が在学しており、教育相談や保健室の利用、情報の共有化等、今後の指導に創意工夫が必要。	C	ミニ体育祭を開催しようとした生徒の活動と、それに対する教員の支援は評価できる。生徒の自主的な活動を、服装指導等の生徒指導に活用する方策も考えてほしい。	教育相談体制の確立と教職員のスキルアップを目指し、多様な生徒に対応できる教育環境づくりを図る。
	特別支援教育コーディネーターを設置したが、その活動や位置付けが不十分であった。今後は、支援組織の構築が急務である。	生徒理解を深め、生徒の発する心のサインを見逃さず、早期に、適切に対応する生徒支援システムを構築するなど、カウンセリング機能の充実を図る。	校内支援委員会を適宜開催して、生徒一人ひとりへの対応を行う。	校内支援委員会を設置し、巡回指導を実施した。専門家のアドバイスを受けることができ、今後につながる研修ができた。今後も継続した取組が必要。	B		校内支援委員会の活動を充実させるとともに、カウンセリングマインドを持った教師集団づくりを図る。
保護者・地域住民等との連携	本校の実態を考え、相談体制の充実や教育相談に関するスキルアップが課題となった。	校内研修を充実させるとともに、教職員のカウンセリングマインドを養成する。	特別な支援を必要とする生徒への対応に関する校内研修を開催する。	特別支援教育や児童虐待に関する校内研修を実施することができた。活動の継続と内容発展が重要。	B		校内研修の内容も吟味しながら、研修を定期的に行い、教職員のスキルアップを目指す。
	学校評価の実施方法がマンネリ化している。外部評価を導入する必要がある。	学校評価の結果公表、学校情報の発信等とおして、開かれた学校づくりを推進する。	学校便りの発行、ホームページの恒常的な更新を行う。	ソビアの風、校長室便り、図書便りを定期的に発行できた。また、HPの内容に良い評価を得ている。	B	学校のPR活動は不十分である。以前に比べて学校が落ち着いてきたという周辺の評価もある。例えば、中学校と協同した活動をすることも大きなPR活動となる。	今後とも、学校通信やHPの充実を図る。また、保小中高が連携した、学校の教育活動のPRにも努めたい。
	地域・保護者との連携は、様々な場面で実施できた。今後は、運用方法を検討していく必要がある。	P T A活動、学校運営協議会等に取り組む、学校経営参画システムを確立する。	愛校作業などのP T Aと一体となった活動の推進、学校運営協議会を年4回開催する。	P T Aや地域からの支援もあり、愛校作業や協議会活動が続けられているが、参加状況等、課題もある。活動内容に工夫が必要である。	B	地域との連携を深める目的で、テレキューブとの連携活動を活性化してほしい。活性化は、学校の好評価につながる。	来年度もP T A活動や学校運営協議会活動を進めていく。また、地域連携の活動に広がりをもたせたい。
	講演会や「総合的な学習の時間」において、地域の人材活用やボランティア活動を積極的にすすめた。	地域の人材活用、地域行事への参画を積極的に進める。	「総合的な学習の時間」での地域の人材活用、部活動・ボランティア活動を通じた地域貢献を図る。	T シャツアート展や介護施設訪問等のボランティア活動を実施したが、より積極的な活動（地域貢献）が課題である。	C		生徒会や学年の活動として、ボランティア活動や地域環境美化活動を実施するとともに、地域人材を生かした教育活動を企画・実践する。
生涯学習の一環として、地域住民の学習ニーズに応える、講座開設が必要である。	聴講生制度、魅力ある生涯学習講座の開設等、地域の生涯学習の拠点として取り組む。	年間を通じて開放講座を開講する。	開放講座を実施することで、地域の方々との交流ができ、また幅広い学習ニーズに応えることができた。	B		来年度の昼間部・夜間部の開放講座を5講座実施し、その充実に努め、地域の学習ニーズに応えていく。	